

ひつじぐも

なつやす とくべつどう 夏休み特別号

第6号 2021. 8. 23 発行

こんにちは！「ひつじぐも」はお家でがんばっていているきょうだいのみんなのためのお手紙です。第4号のドクターヘリのコーナーが人気で、「ドクターヘリに乗っているお医者さん（フライトドクター）と看護師さん（フライトナース）のお話が聞いてみたい！」というリクエストがありました。そこで今回はフライトドクター、フライトナースにお話を聞いたり、ドクターヘリに関わるお仕事をしている人のお話を聞いてきたよ。特別にいろんなところを見せてもらったので、お楽しみに！

フライトドクターとフライトナースに インタビュー！



左：フライトナースの 館野さん

右：フライトドクターの 川副先生

フライトドクターの話は緑色、フライトナースの話はオレンジ色にしているよ。

◆フライトドクター、フライトナースになろうと思ったきっかけを教えてください



川副先生

救急医になるとき、働き始めた病院がドクターヘリを飛ばしていたので、自然となりたと思いました。いろいろな場所で自分の力を発揮できることは、うれしいと感じます。



館野さん

ヘリコプターで、より早く真合の悪い患者さんの治療が始まることに関われるフライトナースになりたいと思い、宮城でドクターヘリが始まる予定はありませんでしたが、講習会を受けました。その時にドクターヘリに初めて乗って、フライトナースになりたい気持ちが強くなりました。

◆初めてヘリに乗って出勤したときの気持ちはどうでしたか



昔だったので、いきなり“今日から乗れ！”と言われて、すごくドキドキしました。まだ若かったので。でもそのときも、自分がひとりで患者に関わって、患者さんの力になれるはずだと気合いを入れました。



病院以外で真合の悪い患者さんを見るのがとても緊張しました。病院は治療で使う物が何でもそろっていますが、病院以外では自分が持っている物しか使うことができません。ドクターヘリで持っている物の中で患者さんに使える物は何かを考えて、フライトドクターとやり方を確認しながら患者さんの治療にあたりました。初めての出勤の時には、とても緊張していたようで家に帰ってすぐに疲れてぐっすり眠りました。

◆大変なことはどんなことですか



お医者さん、看護師さんの2人でも、難しいようなとても具合の悪い患者さん（特に子ども）の治療をしなければならない時は、歯を食いしばりながら活動しなければなりません。自分の子どもだと思って頑張ります。



季節によって暑かったり寒かったりすること、ドクターヘリで使うバッグが重いこと、治療する場所が救急車の中で狭い中で活動すること、走ったり担いだりするので体力が必要なこと・・・いろいろ大変なことはありますが、全てがドクターヘリを必要とする患者さんのためなのでなんとか頑張っています。

◆どんなときにやりがいを感じますか



とても具合の悪い患者さんを現場で緊急で治療して、自分たちだけで何とか仲間が待つ病院まで運んで、上手く治療を引き継いだ時にはどっと疲れますが、ドクターヘリ活動のやりがいを感じます。助かってくれ！と祈りながら、自分もチームの一員として治療をして、患者さんが助かってくれた時には本当にやりがいを感じます。



具合の悪い患者さんの治療をして無事に病院に送り届けてドクターヘリで帰る時に、運んだ病院の窓からたくさんの入院患者さんが手を振ってくれることがあります。私たちも手を振り返すと笑顔で更に手を振ってくれるので、とてもうれしくなります。患者さんを無事に病院につなげることが出来て良かった、と思います、それがやりがいになっていると思います。



◆ドクターヘリは酔いませんか



自分の体調にもよりますが、風が強い日には酔いやすいです。なるべく酔わない乗り方が身につきます。嵐の日はもちろんですが、意外と晴れた小春日和の日とか、風が強いんです。



幸いなことに私は乗り物酔いをしないので、ドクターヘリに乗っていても酔いません。フライトドクター、フライトナースでも乗り物酔いしやすいスタッフがいるので、酔い止めの薬を飲んだり、遠くを見たりして酔わないように工夫しています。患者さんが乗るときにはベッドに寝た状態で運ぶので、酔ってないか、気持ち悪くないか声をかけながら気にかけてるようにしています。

◆今までで出勤したことがある場所で、一番遠くはどこですか



和歌山県の大学病院に勤めていた時、病院から紀伊半島の南の端まで飛んで治療をし、その帰り道で三重県から応援の連絡があって、合計で3時間以上ドクヘリの活動をしたことがあります。とても疲れました。ドクヘリ活動は、気が張っているためか、空の上の気圧やヘリコプターの中の環境のせいかな、とても疲れやすいのです。東北大学病院では、岩手県に応援に行ったことがあります。仙台から100 kmを少し超えたところでした。日本では、ドクヘリが飛び病院から100 kmが基本的な活動エリアです。



ドクターヘリは100 km 円の中でだけ動くので、東北大学病院からドクターヘリで出勤すると気仙沼が一番遠いです。片道30分ぐらいかかります。山形、福島、岩手県から呼ばれることもあります。



◆空から地上はどのように見えますか



とてもきれいに見えます。時には観光名所を上空から見ることもできます。和歌山では那智の滝や熊野大社、宮城では松島や青葉城を見ることができます。緑や紅葉、雪の季節にはとてもきれいな景色を見ることができます。その景色を眺めるためにドクヘリに乗っています…というのは冗談です。

川副先生、館野看護師さん、たくさんお話をきかせてくださってありがとうございました。体力も必要だし、勉強もいっぱいする必要があるし、患者さんを助けたい！という強くてやさしい気持ちも必要なお仕事だね。大変な中、患者さんのために一生懸命働くお医者さんと看護師さんはとてもかっこいいね！



ドクターヘリは地上500-600 m ぐらいを時速200-250 km で飛んでいます。雲の下を飛ぶので、小さな模型のように景色がよく見えます。仙台市内の建物がたくさんある街からどんどん離れると、海や山が見えてきてとてもきれいです。安全のために、鳥や飛行物がヘリの周りにいないか見守りながら出動しています。

お医者さんと看護師さんの他にも、ドクターヘリを出動させるためにいろいろな人が働いています。秘密のお部屋やドクターヘリの中を見せてもらったので、次のページで紹介するね！



しーえすしつ CS室のこと

しーえすは「こみゅにけーしょんすべしやりすと」というお仕事です。ドクターヘリの出動の連絡を受け取ってヘリにのる仲間に連絡をしたり、ヘリが安全に飛ぶように天気を確認したり、無線でいろんなところと連絡を取ったりしているよ。CS室では、ドクターヘリを出動させるために必要な情報を集めているよ。

蔵王や松島の天気を確認

ドクターヘリが
今どこを飛んでいるか分かるよ！



左：整備士の金杉さん 真ん中：操縦士の館野さん 右：CSの川口さん

ヘリポートをぐるっと見回せる
(医療センターのも見ることが
できるよ！)

無線は医療無線、消防無線、
航空無線の3つ！



CSの川口さんにお部屋の中を紹介してもらいました！



壁には地図がはってあるよ。
パソコンもいっぱい！
どんなものがあるか見てみよう！

ヘリのこと

ヘリにはフライトドクター、
フライトナース、操縦士さん、
整備士さん、患者さん、患者さんの
ご家族1人の、あわせて6人が
乗れるよ。





横のドアをあけるとこんな感じ！
イス、患者さんが横になるベッド、
患者さんを助けるために必要な
道具がいっぱい！



患者さんを乗せたベッドは、
ヘリの後ろのほうから出たり
入ったりできるよ。



操縦席からは外がこんな風に見えるよ。

操縦席のモニター！
車の運転席よりもずっとたくさんの
画面やボタンがあるね！



しゅつどう でんわ 出動してください！と電話がきたら…

専用の機械を使って、みんなに電話するよ。急いで集合して、患者さんが待つ場所まで飛んでいきます。みんなに電話をしてからドクターヘリが飛ぶまでの時間は…
なんとたったの5分！

空の上で「交通事故です」などの大まかな情報が届くよ。出発して2、3分で着くような近いところは、どんな患者さんなのか情報が届く前に地上に着くんだよ。だからたくさんのご事情を知らずにはいけないし、患者さんに何をしなければいけないか素早く考えて決めなくてはいけないんだよ。

出動するときに持って行くリュックだよ。
小さいのは子ども用、大きいのは大人用です。大切なものが入っていて重いよ。



どうだったかな？暑い日が続くので、夏バテしないように水分をしっかりとりね！

病院の人にお話したいことや、病院のことで聞きたいこと、「ひつじぐも」を読んだ感想があったら、ぜひ「ひつじぐも」のアンケートや、お手紙で教えてください！

今回お話を聞かせてくれた、ドクターヘリに関わる人へのお手紙も待っているよ！さいごに…

いつもお家で頑張ってくれてありがとう！
病院からみんなのことを応援しているよ！



ひつじぐものバックナンバーはこちらから
アクセスできます！（東北大学病院小児腫瘍センターHP内）